

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0493

(注)本稿は2020年1月14日から21日まで5回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

掲載日:2020.1.23

前田 高行

## **日本は世界121位、前回よりさらにダウンー世界と中東主要国の「男女格差指数」**

(世界ランクシリーズ その5 2020年版)

国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第5回のランキングは世界経済フォーラム(WEF)が行った「世界男女格差報告2020(The Global Gender Gap Report 2020)」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。

\* WEF のホームページ:

<https://www.weforum.org/reports/gender-gap-2020-report-100-years-pay-equality>

### **1. 「世界男女格差報告2020」について**

「世界男女格差報告2020(The Global Gender Gap Report 2020)」(以下「2020年版報告書」)を公表した「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, WEF)は、スイスのジュネーブに本部を置く非営利団体であり、毎冬スイスのダボスで行われる「ダボス会議」の主催者としてよく知られている。

「2020年版報告書」は世界153カ国を対象に経済、教育、健康、政治の4つの分野について、世界或いは各国の公的機関が公表する男女別のデータに基づき、それぞれの分野の男女間の格差を指数化し順位付けを行ったものである。

#### **(1)比較対象される分野とその内容**

対象とされるのは以下の4つの分野であり、各分野にはそれぞれ二つ乃至五つの比較項目がある。

I 経済参画分野:経済活動への参加度及び参画の機会(Opportunity)に関する男女格差

比較項目:(1)労働参加比率、(2)同一労働賃金格差、(3)平均所得格差、

(4)幹部職比率、(5)専門・技術職比率

## II 教育分野:教育の機会に関する男女格差

比較項目:(1)識字率、(2)初等教育就学率、(3)中等教育就学率、(4)高等教育就学率

## III 健康・寿命分野:健康と寿命に関する男女格差

比較項目:(1)新生児男女比率、(2)平均寿命

## IV 政治参画分野:政治参画の度合に関する男女格差

比較項目:(1)女性議員比率、(2)女性閣僚比率、  
(3)過去50年間の女性元首(首相等)在任期間

### (2)指数化の方法と順位付け

153カ国について上記四つの分野の各比較項目に関する男女それぞれの数値或いは比率のデータを抽出し、この男女のデータについて男性を1とした場合の女性の指数を算定する(最大値は1とする)。この指数の意味は、指数1の場合男女が完全に平等であることを意味しており、指数が低くなればなるほど男女の格差が大きいことを示している。

各比較項目の指数を加重平均したものを、その分野の指数とする。最後に4つの分野の指数を加重平均したものがその国の格差指数であり、153カ国の指数を上位から順に総合順位を付けるのである。

(北欧諸国がトップ独占、日本は韓国にも追い越されて世界121位！)

### 2. 2020年の男女格差指数世界ランク(末尾表 5-T01 参照)

2020年の世界男女格差ランクのトップ(即ち男女の格差が最も少ない国)はアイスランドであり、同国の格差指数は0.877である。これに続くのが2位ノルウェー(指数0.842)、3位フィンランド(同0.832)、4位スウェーデン(同0.820)であり、5位には中米のニカラグア(同0.804)がランクされている。昨年の世界ランクと比較すると1位アイスランドと2位ノルウェー、5位ニカラグアの順位に変動はなく3位と4位が入れ替わっただけである。1位から4位まではすべて北欧の国々であり、男女格差の少ない国として安定した評価を得ている。

日本を含む主要な国々の世界ランクを見ると、英国は21位、米国は53位である。一方アジアの主要な国のランクは中国の106位をはじめ韓国108位、インド112位といずれも世界153カ国中では100位以下の下位グループである。このような中で日本はこれらいずれの国よりも低い世界ランク121位にとどまっている。これら6カ国の世界ランクを前回(2018年、対象国数149カ国)に比べると韓国以外はすべてランクが下がっている。特に日本は前回の110位から大幅に下落し、韓国にも追い越されている。

中東の主要国では、イスラエルが世界64位と最も高い。その他の中東諸国はいずれも世界ランク100位以下であり、UAE120位、トルコ130位、エジプト134位、サウジアラビア146位、イラン1

48位にランク付けされている。UAE は日本より1ランク上であり、サウジアラビア及びイランは153各国中のほぼ最低ランクにとどまっている。(世界153位はイエメン)

(格差が大きい政治分野、小さい教育分野！)

### 3. 分野別のランクとスコア(末尾表 5-T02 参照)

男女格差指数は(1)経済参画分野、(2)教育分野、(3)健康・寿命分野及び(4)政治参画分野の4つの分野について公表されたデータに基づいて詳細な比較検討が行われている(本稿第1章参照)。本章では第2章で取り上げた国々、すなわち世界の上位5か国及び日本を含む主要各国並びに中東主要国について4分野のスコアと世界ランクを概観する。

#### (1) 経済参画分野の男女格差

総合世界1位のアイスランドはこの分野でも世界2位(スコア0.839)と高い地位を占めている。またノルウェー、フィンランド、スウェーデンの北欧3か国もスコアは0.790前後で世界10位台にランクされている。

米国は26位、英国は58位であるが、日中韓印のアジア4か国は、中国の91位が最も高く、日本は115位、韓国127位、インド149位である。後述するように4分野におけるスコアの格差は政治分野が最も大きく、次いで経済分野となっており、教育分野或いは健康・寿命分野の国別格差は小さい。

#### (2) 教育分野の男女格差

WEF が各国の統計値をもとに判断した教育分野の男女格差は極めて小さい。即ちノルウェー、フィンランド、米国のスコアは1.000であり男女格差が無いとされる。格差指数は1.000が上限であり、国によっては1を超える(即ち男女の逆格差)ケースもあり、格差指数1.000は153か国中35か国に達する。

日本のスコアは0.983とされておりトップとの格差は0.017にとどまるが世界ランクは91位である。同様に中国と韓国はスコア0.973で共に世界100位である。中東諸国ではイスラエルがスコア1.000で世界1位グループに入っている。その他 UAE は世界89位(スコア0.987)、サウジアラビア91位(同0.983)であり、エジプト、トルコ、イランは世界100位以下である。但し世界117位のイランのスコアは0.953でトップグループのイスラエル或いは UAE と比べスコア格差はさほど大きくない。

#### (3) 健康・寿命分野の男女格差

韓国及びニカラグアはスコア0.980で世界1位であるが、同スコアは39か国ある。このためスコアがわずかに0.001しか変わらない0.979の日本は世界順位が40位とされている。この分野の世界最下位は中国であり同国のスコアは0.926である。トップとのスコアの差は0.054で、この格差の中に153か国がひしめいており、わずかなスコアの差がランク上の大きな差となって表れている。

#### (4) 政治参画分野の男女格差

この分野の世界1位はアイスランドで同国のスコアは0.701である。これに続く世界2位はノルウェーであるが、同国のスコアは0.598でありアイスランドと大きな開きがある。日本はスコア0.049、世界順位144位であり、インド(世界18位)にはるかに及ばず、韓国、中国或いはUAE各国とも大きな格差があり、先進国の中では際立って低い。

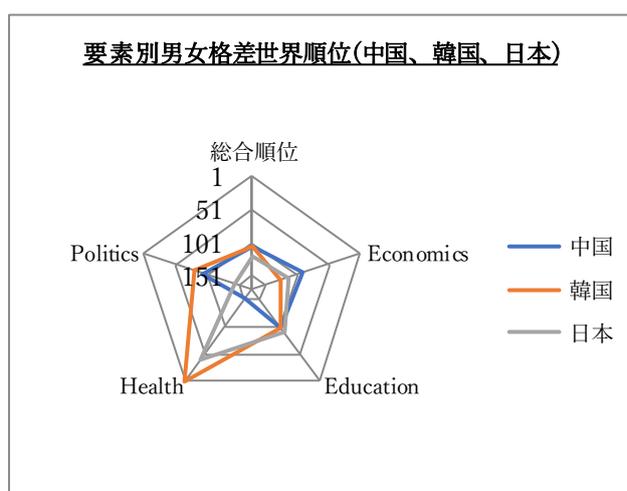
この分野トップのアイスランドのスコアと日本のスコアの差は0.652と極めて大きい。因みにこの分野の最下位はパプアニューギニアの0.000(即ち男女格差は無限大)であり、4つの分野の中では国別格差が最も大きい。

政治の男女格差は女性国会議員数、閣僚数、或いは過去50年間の女性元首(首相等)の在任期間でランク付けされているため全体的に各国ともスコアが低く、また同じ先進国でもヨーロッパに比べ日米のランクが低い結果となっている。

#### 4. 日米中他3グループのの要素別比較(レーダーチャート)

日本・中国・韓国の3カ国、中東の三大国(エジプト、サウジアラビア、イラン)及び、UAE・インド・トルコの3グループ9カ国を取り上げ、総合順位と4つの分野別順位(経済、教育、健康及び政治)をレーダーチャートで表してみる。レーダーチャートは最も外側が世界1位(つまり男女格差が世界で最も小さい)であり、以下中心に向かうほど順位が低くなる(即ち男女格差が大きい)。グラフの実線が外側に広がるほど男女格差が少ないことを示し、また真円に近いほど男女格差のバランスが取れていることを示している。

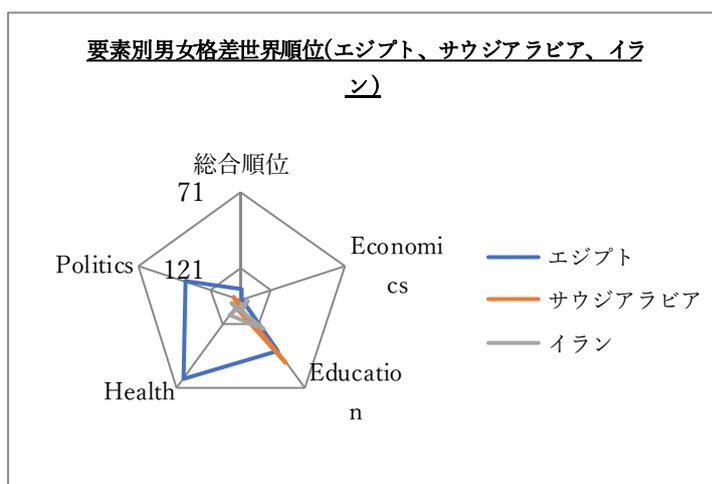
##### (1) チャート1(中国、韓国、日本)



中国、韓国及び日本の総合順位は106位、108位、121位といずれも100位以下で、日本が最も低い。教育分野の男女格差は日本が91位、中国及び韓国が100位であり、3カ国に大きな格差はない。経済分野では中国が91位、日本115位、韓国127位で韓国の男女格差が最も大きい。

健康分野及び政治分野では3か国に大きな男女の格差があり、健康については韓国が世界1位に対し日本は40位とすこし格差があるが、中国は世界最下位の153位であり、韓国あるいは日本と大きな格差がある。一方政治分野の男女格差では韓国(79位)と中国(94位)に対して日本は世界144位と非常に悪い。

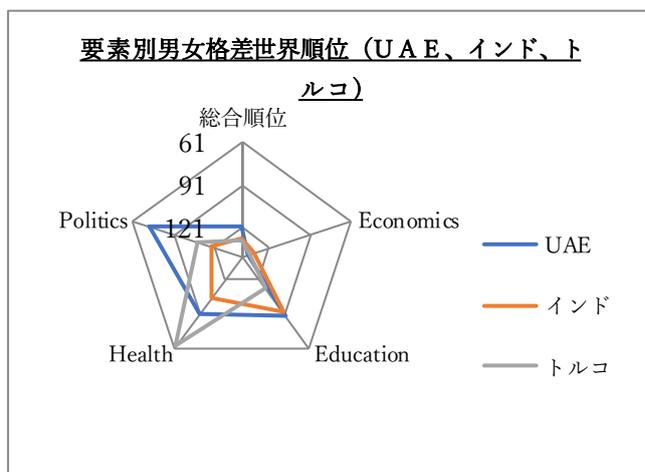
## (2) チャート2(エジプト、サウジアラビア、イラン)



エジプト、サウジアラビア及びイランは総合順位が世界134位、146位、148位といずれも男女格差が非常に大きい。4分野のうち経済分野の男女格差は3か国とも140位台でほぼ同じである。また教育分野はサウジアラビアが世界91位、エジプト100位、イラン117位であり、スコアで見てもサウジアラビアの0.983からイランの0.953まで大きな格差はない。しかし健康の男女格差はエジプト

が世界78位であるのに対し、イラン及びサウジアラビアはそれぞれ129位と137位でありエジプトと格差がある。また政治分野の男女格差も同様の傾向にあり、エジプトが世界103位であるのに対し、サウジアラビアは136位、イラン145位と日本(144位)と同じ世界の最低レベルにとどまっている。

## (3) チャート3(UAE、インド、トルコ)



UAE、インド及びトルコは総合順位が世界120位、129位、130位とほぼ並んでいるが、分野別に見ると経済の男女格差以外は各国間の格差が大きい。経済の男女格差はインドが世界133位、トルコ136位、UAEが137位であり、いずれも低いランクにとどまっている。

教育分野の男女格差はUAE及びインドが世界89位、93位であるが、トルコは113位と他の2か国に比べ見劣りする。健康

分野はトルコが63位で世界の上位グループに入っているが、UAEは91位、インドは105位である。また政治参画の男女格差はUAEが世界74位であるが、トルコ(109位)、インド(119位)はいずれも世界100位以下である。

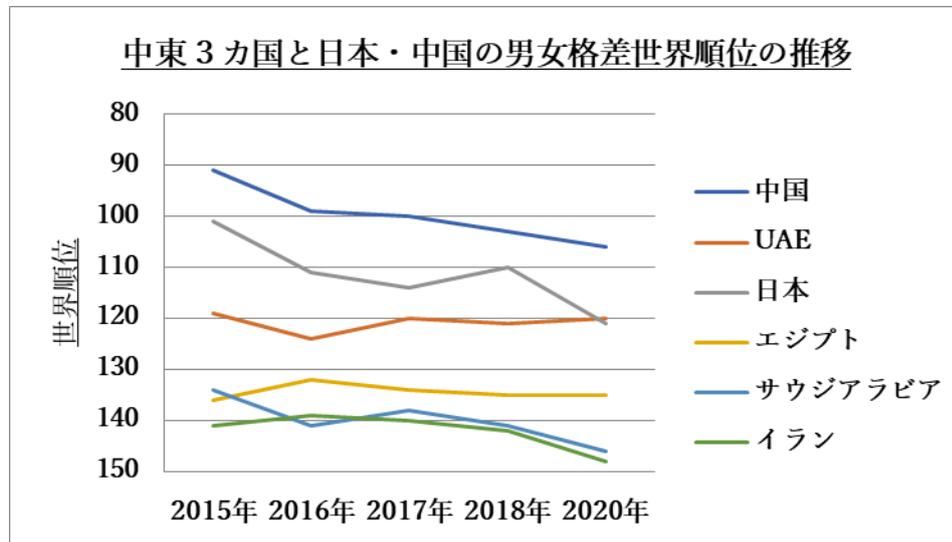
(凋落はなほだしい日本！)

## 5. 2015~2020年の総合ランクの推移

ここでは中東4か国(UAE、エジプト、サウジアラビア及びイラン)に日本、中国を加えた6か国の過去5回の世界ランクの推移を検証する。

この6か国の中で過去5回にわたり順位がほとんど変わらなかったのはUAEとエジプトの2か国であり、他の4か国はいずれもランクの下落傾向が止まらない。中でも特に凋落の激しいのが日本で

あり2015年に世界101位であったが、その後2018年にわずかに復調の兆しを見せたものの、今回再び121位に転落、2015年に比べランクが20位も落ちている。中国も2015年の91位から今回は106位と15ランク下落しており、サウジアラビア(134位→146位)、イラン(141位→148位)も2017年以降3回連続でランクを下げている。



UAE は119位→124位→120位→121位→120位とほぼ一定している。同国は今回日本を1ランク上回る結果となっている。エジプトも136位→132位→134位→135位→135位であり、130位台に固定している。

### **追記: 各分野のスコアとその配分に若干の問題?**

WEF の男女格差指数では日本のランクが極めて低く、特に先進国の中で最低のランクとスコアであることはかなりショッキングな内容と言えよう。日本の政治分野の男女格差が諸外国に比べて際立って大きく、また経済分野でも格差の是正が遅れていることは WEF が指摘するまでもなく明らかであり、その点では WEF の評価に異論を唱えるつもりはない。

しかしながら4分野のスコアの配分及び各分野で一部開発途上の国がかなり高いスコアを出していることには若干問題があるように見える(筆者の独断と偏見と言われればそれまでであるが)。

まず各分野のスコアの偏差値がかなり片寄っていることが指摘できる。例えば政治分野は0.701(アイスランド)が最も高く、0.000(パプアニューギニア)が最も低い。その格差は0.701である。経済分野も政治分野同様スコアの格差が大きい。これに対して健康分野では最高スコア0.980(ニカラグア他39カ国)に対し最低スコアは0.926(中国)であり、格差は0.054に過ぎず、教育分野では格差指数最大の1.000が35カ国にのぼっている。総合順位は各比較項目を加重平均したものであるため偏差値の高い教育及び健康分野が全体のスコアと順位に影響を及ぼしていると考えられる。

次に各分野の国別スコアも問題含みと言えそうである。例えば健康分野の最高スコア0.980を

与えられた39カ国の中にはアンゴラ、ボツアナなどアフリカ大陸の国々、あるいはニカラグア(因みに同国は総合世界4位)、ドミニカ、エルサルバドルなどの中米諸国が上がっている。また経済分野では北欧諸国とともにアフリカのベナン、ザンビアなど多くの開発途上国がトップグループに入っており、これらの国の中には独裁政権も混じっている。

スコア算定のデータは国際機関が発表したものも少なくないが、元データはいずれも各国政府が提供したものである。各国政府が意図的に脚色したデータを提出してもそれを検証することは困難であり、このような意図的改ざんは独裁政権では極めてありがちである点を指摘しておきたい。(以上はあくまでも筆者個人の私見であることをお断りしておく。)

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)

## 男女格差指数ランキング

2020年			2018年			2018/2017年	
世界順位	国名	スコア	順位	スコア	国名	順位	スコア
1	アイスランド	0.877	1	0.858	アイスランド	-	-
2	ノルウェー	0.842	2	0.835	ノルウェー	-	-
3	フィンランド	0.832	3	0.822	スウェーデン	-	-
4	スウェーデン	0.820	4	0.821	フィンランド	-	-
5	ニカラグア	0.804	5	0.809	ニカラグア	-	-
最下位 (153位)	イエメン	0.494	最下位 (149位)	0.499	イエメン	-	-
21	英国	0.767	15	0.774	-	▲ 6	▲ 0.007
53	米国	0.724	51	0.720	-	▲ 2	0.004
106	中国	0.676	103	0.673	-	▲ 3	0.003
108	韓国	0.672	115	0.657	-	7	0.015
112	インド	0.668	108	0.665	-	▲ 4	0.003
121	日本	0.652	110	0.662	-	▲ 11	▲ 0.010
	(中東主要国)						
64	イスラエル	0.718	46	0.722	-	▲ 18	▲ 0.004
120	UAE	0.655	121	0.642	-	1	0.013
130	トルコ	0.635	130	0.628	-	0	0.007
134	エジプト	0.629	135	0.614	-	1	0.015
146	サウジアラビア	0.599	141	0.590	-	▲ 5	0.009
148	イラン	0.584	142	0.589	-	▲ 6	▲ 0.005

## 2020年男女格差指数ランキング(項目別)

世界 順位	国名	Global Index	Economic Participation and Opportunity		Educational Attainment		Health and Survival		Political Empowerment	
		スコア	ランク	スコア	ランク	スコア	ランク	スコア	ランク	スコア
1	アイスランド	0.877	2	0.839	36	0.999	120	0.968	1	0.701
2	ノルウェー	0.842	11	0.798	1	1.000	91	0.972	2	0.598
3	フィンランド	0.832	18	0.788	1	1.000	55	0.977	5	0.563
4	スウェーデン	0.820	16	0.790	58	0.996	115	0.969	9	0.525
5	ニカラグア	0.804	81	0.671	1	1.000	1	0.980	3	0.565
最下位	イエメン	0.494	151	0.273	150	0.717	129	0.966	151	0.018
21	英国	0.767	58	0.704	36	0.999	108	0.970	20	0.396
53	米国	0.724	26	0.756	1	1.000	63	0.976	86	0.164
106	中国	0.676	91	0.651	100	0.973	163	0.926	94	0.154
108	韓国	0.672	127	0.555	100	0.973	1	0.980	79	0.179
112	インド	0.668	149	0.354	112	0.962	150	0.944	18	0.411
121	日本	0.652	115	0.598	91	0.983	40	0.979	144	0.049
	(中東主要国)									
64	イスラエル	0.718	67	0.688	1	1.000	97	0.971	54	0.214
120	UAE	0.655	137	0.472	89	0.987	91	0.972	74	0.191
130	トルコ	0.635	136	0.478	113	0.961	63	0.976	109	0.124
134	エジプト	0.629	140	0.438	100	0.973	78	0.974	103	0.133
146	サウジアラビア	0.599	148	0.375	91	0.983	137	0.963	136	0.077
148	イラン	0.584	147	0.381	117	0.953	129	0.966	145	0.037